

# 平成 6 年の病害虫の発生と防除

## 農林水産省農蚕園芸局植物防疫課

### I 夏作期間の気象経過の概要と農作物被害

本年の春はほぼ全国的に、高温・少雨・多照の状況で推移した。

梅雨入りは全国的にはほぼ平年並みだったが、梅雨明けは沖縄を除いて平年より 1~2 週間早く、梅雨前線の活動も不活発であったため、梅雨期間の降水量は沖縄と九州南部を除いて平年のほぼ半分程度ないしはそれ以下となった(表-1)。

梅雨明け後は、オホーツク海高気圧が現れた 6 月と寒冷低気圧の影響を受けた 8 月 20 日前後の一時期を除いては晴れて暑い日が続き、このため夏(6月~8月)の気温は南西諸島を除いて全国的に 1°C 以上高く、特に東北南部から関東甲信、東海にかけての内陸部や大阪から瀬戸内では 2°C 以上高かった。また、降水量はほぼ全国的に平年を大きく下回り、特に関東甲信、東海の一部、北陸から近畿、瀬戸内、中国、九州北部では 40% 以下であった。日照時間はほぼ全国的に平年を上回り、東北の太平洋側から九州にかけての大部分の地域では 120% 以上で

あった。

この顕著な高温・少雨・多照のため、各地の気象官署で観測開始以来の記録を更新している。

9 月も全国的な高温傾向は継続した。また、22 日~24 日にかけての宮城県を中心とした大雨、29~30 日にかけての台風 26 号の影響により四国以東ではかなりの降水があったが、月全体の降水量では西日本では日本海側を除いて平年より少ない。このため、台風 26 号により数十ミリの雨量しかなかった九州北部では依然渇水の状況が継続している。日照時間は、北海道、東北北部を除いては全般に平年を上回っている。

台風の発生は春(3月~5月)は平年並みであったが、夏(6月~8月)の発生数は 18 個(平年 11.6 個)と統計が整備された昭和 26 年以降では最も多い。日本へは 7 月に発生した 7 号が高知県に、11 号が青森県にそれぞれ上陸し、7 号は四国や九州などにまとまった雨をもたらした。9 月は 8 個の台風が発生し(平年は 5.2 個)、このうち、大型の 26 号は紀伊半島に上陸し、東海地方を中心に水稻の倒伏等の被害をもたらした。

表-1 1994 年梅雨の状況

地 域	梅 雨 入 り				梅 雨 明 け				梅雨期間	降 雨 量 (mm)		
	平 年	本 年	差	(昨 年)	平 年	本 年	差	(昨 年)		本 年	平 年	本年
沖 縄	5月11日	5月3日	8日早	5月3日	6月23日	6月23日	±0	6月25日	51日	487.2	515.0	106%
奄 美	5月11日	5月21日	10日遅	5月1日	6月28日	6月23日	5日早	6月25日	33日	687.7	422.5	61%
九州南部	6月2日	5月25日	8日早	5月17日	7月13日	7月1日	12日早	—	37日	637.1	497.5	78%
九州北部	6月8日	6月7日	1日早	5月29日	7月18日	7月1日	17日早	—	24日	451.3	150.5	33%
四 国	6月6日	6月7日	1日遅	5月29日	7月16日	7月2日	14日早	—	25日	268.6	88.5	33%
中 国	6月8日	6月8日	±0	5月30日	7月19日	7月9日	10日早	—	31日	※486.6	127.5	26%
近 畿	6月8日	6月8日	±0	5月30日	7月19日	7月10日	9日早	—	32日	335.8	130.0	39%
東 海	6月9日	6月7日	2日早	5月30日	7月18日	7月11日	7日早	—	34日	361.1	161.5	45%
関東甲信	6月9日	6月7日	2日早	5月30日	7月20日	7月12日	8日早	—	35日	267.5	145.5	54%
北 陸	6月12日	6月8日	4日早	6月2日	7月22日	7月13日	9日早	—	35日	268.6	125.0	47%
東北南部	6月12日	6月19日	7日遅	6月3日	7月23日	7月12日	11日早	—	23日	244.2	114.5	47%
東北北部	6月14日	6月19日	5日遅	6月3日	7月26日	7月13日	13日早	—	24日	159.5	94.5	59%

※降水量の記録は、那覇、名瀬、鹿児島、福岡、高松、広島、大阪、名古屋、東京、新潟、仙台、青森の値  
 ※梅雨入り・明けの平年並の範囲：梅雨入りは平年日±2日以内(東北と北陸では±3日以内)、梅雨明けは平年日±3日以内  
 これより早い、あるいは遅い場合を「早い」あるいは「遅い」と表現する。

※広島の前年値は旧観測地点での値であり、降水量平年比は参考である。

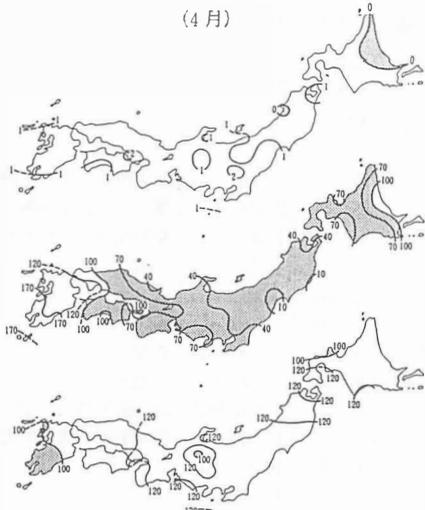
※—は梅雨明けが決まらなかったことを示す。

(4月)

気温年差(°C)  
 名瀬 0.8  
 那覇 1.3  
 石垣島 1.7

降水量年比(%)  
 名瀬 122  
 那覇 29  
 石垣島 39

日照時間年比(%)  
 名瀬 65  
 那覇 90  
 石垣島 131

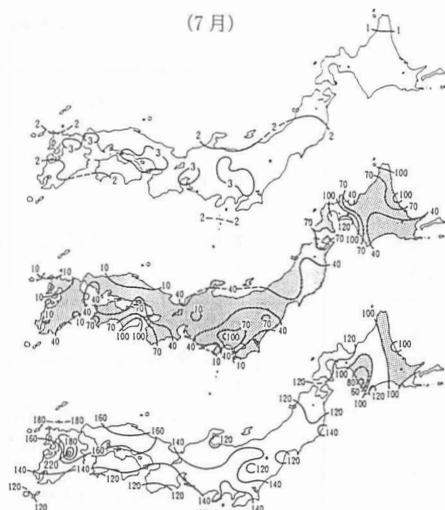


(7月)

気温年差(°C)  
 名瀬 0.7  
 那覇 1.1  
 石垣島 0.4

降水量年比(%)  
 名瀬 19  
 那覇 50  
 石垣島 79

日照時間年比(%)  
 名瀬 108  
 那覇 100  
 石垣島 104

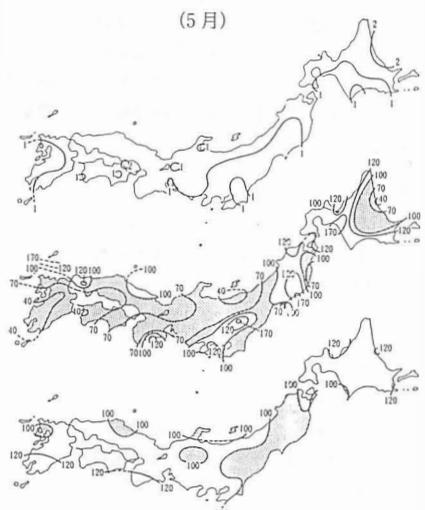


(5月)

気温年差(°C)  
 名瀬 0  
 那覇 -0.4  
 石垣島 -0.3

降水量年比(%)  
 名瀬 58  
 那覇 161  
 石垣島 64

日照時間年比(%)  
 名瀬 121  
 那覇 98  
 石垣島 99

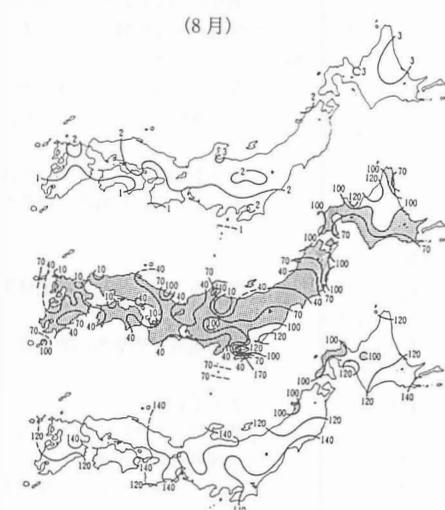


(8月)

気温年差(°C)  
 名瀬 0.4  
 那覇 0.6  
 石垣島 -0.3

降水量年比(%)  
 名瀬 60  
 那覇 52  
 石垣島 171

日照時間年比(%)  
 名瀬 97  
 那覇 82  
 石垣島 84

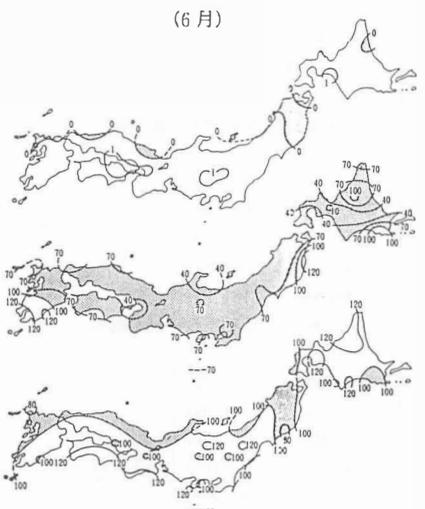


(6月)

気温年差(°C)  
 名瀬 0.8  
 那覇 0.7  
 石垣島 0.3

降水量年比(%)  
 名瀬 71  
 那覇 55  
 石垣島 141

日照時間年比(%)  
 名瀬 115  
 那覇 105  
 石垣島 128

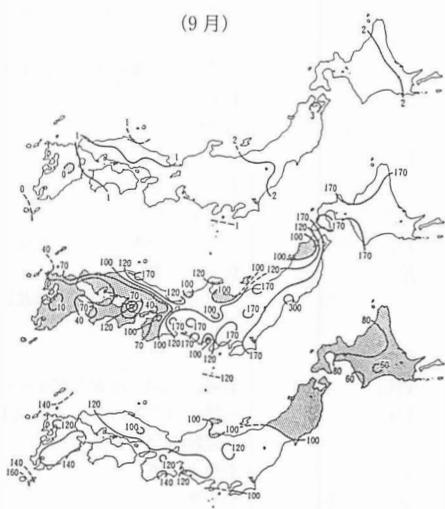


(9月)

気温年差(°C)  
 名瀬 -0.8  
 那覇 -0.4  
 石垣島 -0.7

降水量年比(%)  
 名瀬 14  
 那覇 33  
 石垣島 16

日照時間年比(%)  
 名瀬 117  
 那覇 92  
 石垣島 105



月平均気温・月降水量・月日照時間の年差(比)

## 病害虫別発生・防除状況(平成6年10月1日現在)

(単位:千ha, %)

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
(イネ)				
葉いもち	東北を除きやや多〜多	752( 78)	1,947( 82)	種子汚染率高い春期高温
穂いもち	少	369( 41)	2,618( 71)	葉いもち防除の徹底, 高温・少雨
紋枯病	関東, 近畿及び中国四国の一部でやや多	893(110)	1,563( 95)	夏期高温, 但し少雨は抑制効果
白葉枯病	少	15( 19)	25( 83)	少雨
縞葉枯病	平年並以下	59( 69)	—	
ばか苗病	平年並以下	42(100)	1,505( 85)	
もみ枯細菌病	東北, 関東, 北陸, 東海及び近畿の一部でやや多	80(266)	178(254)	高温
稲こうじ病	平年並〜少	126( 65)	38(100)	高温・少雨
ニカメイガ	一部地域でやや多〜多, 特に関東北部で多	298( 90)	876(101)	越冬密度高い, 稲わらの再利用
セジロウンカ	東北の一部でやや多, 西日本は少	716( 66)	1,299( 78)	梅雨前線不活発で飛来量少
トビイロウンカ	少	91( 30)	1,082( 82)	〃
ヒメトビウンカ	一部でやや多の他は平年並	786(114)	1,361( 98)	
ツマグロヨコバイ	東北, 関東, 北陸及び中国四国の一部でやや多〜多	880(112)	1,187( 92)	越冬密度高い
イネドロオイムシ	九州を除く地域の一部で多〜多	407(107)	826(108)	昨年多発の影響
斑点米カメムシ類	やや多〜多	378(147)	1,497(115)	高温・少雨
コブノメイガ	九州の一部等でやや多〜多	345( 58)	633( 86)	飛来量は少なかったが増殖率高い
イネミズゾウムシ	一部地域でやや多〜多の他は平均並	1,193(104)	1,153(107)	越冬量多く早期から活動
(ムギ類)				
さび病類	西日本の一部でやや少の他は平年並	36( 90)	48( 76)	
うどんこ病	平年並〜少, 北海道ではやや多	94( 99)	195( 95)	
赤かび病	少	70( 93)	194( 92)	少雨
雪腐病	少	43( 91)	78( 92)	暖冬少雪
雲形病	北陸の一部でやや多の他は平年並以下	0.6( 15)	0.2( 7)	
(ジャガイモ)				
疫病	一部地域でやや多の他は少	19( 2)	366( 86)	
(ダイズ)				
紫斑病	平年並以下	3( 43)	20( 47)	
ハスモンヨトウ	関東以西の地域で多	21( 62)	36(116)	高温, 少雨
ハダニ類	一部地域でやや多	8(114)	2( 40)	高温乾燥
アブラムシ類	東北・北陸を中心に一部でやや多	24( 80)	35( 88)	〃
(カンキツ類)				
そうか病	一部でやや多の他は平年並以下	15( 65)	90( 96)	
黒点病	〃	54( 58)	281( 75)	
かいよう病	一部でやや多〜多の他は平年並以下	18( 72)	69( 79)	
ヤノネカイガラムシ	平年並以下	7(100)	94( 93)	
ミカンハダニ	西日本でやや多	72(111)	268( 96)	高温乾燥
(リンゴ)				
腐らん病	平年並〜やや少	8( 88)	72( 99)	
モニリア病	平年並〜少	2( 4)	60( 83)	
斑点落葉病	一部でやや多の他は平年並〜やや少	19( 79)	369( 90)	
黒星病	やや少〜少	5( 17)	309( 88)	
ハマキムシ類	一部でやや多の他は平年並以下	4(100)	218( 99)	
ハダニ類	やや多〜多	23(209)	154(124)	高温乾燥
(ナシ)				
黒斑病	関東, 北陸, 近畿及び中国の一部でやや多〜多	4( 80)	88(129)	
黒星病	一部地域を除いて平年並以下	3( 75)	145( 94)	
ナシヒメシンクイ	一部地域でやや多〜多	1(100)	50(106)	
ハダニ類	やや多〜多	11(183)	51(106)	高温乾燥
アブラムシ類	やや多	9(113)	53(100)	〃
(モモ)				
せん孔細菌病	東北及び中国の一部でやや多の他は平年並以下	2( 67)	24( 92)	

	概 評	発生面積 (前年比)	延べ防除面積 (前年比)	備 考
灰星病 (ブドウ)	やや少～少	1( 50)	43( 90)	
晩腐病	やや少～少	1( 33)	63(103)	
べと病	やや少～少	3( 38)	64( 79)	
灰色かび病 (カキ)	やや少～少	1( 33)	31( 89)	
うどんこ病	近畿及び中国の一部でやや多の他は平年並～やや少	8( 73)	50( 83)	
落葉病類	関東、北陸及び中国の一部でやや多の他は平年並～やや少	3( 50)	48( 86)	
カキクダアザミウマ	東北、関東及び北陸でやや多、それ以外は平年並以下	6(120)	23(110)	
(果樹共通)				
カメムシ類 <sup>1)</sup> (チャ)	ナシ及びカキでは関東以西の一部でやや多～多	14(280)	84(118)	
炭そ病	中国及び九州の一部で多、それ以外はやや少	25( 76)	103( 82)	
チャノコカクモンハマキ	一部地域でやや多の他は平年並以下	11( 50)	76(107)	
カンザワハダニ (キュウリ)	やや多～多	35(130)	134(128)	高温乾燥
べと病	一部地域でやや多の他は平年並以下	8( 89)	60( 94)	
うどんこ病 (スイカ)	平年並～やや多で、夏秋キュウリは平年並～多	9( 78)	51(111)	
つる枯病 (ハクサイ)	平年並以下	5(125)	48( 89)	
軟腐病	平年並。秋冬ハクサイは九州でやや多～多	4(133)	29(104)	
白斑病 (キャベツ)	平年並以下	4(100)	33(100)	
黒腐病	平年並～少	8( 89)	39(103)	
コナガ (タマネギ)	北、東日本でやや多～多。西日本では平年並。	20(118)	88(128)	
べと病 (野菜共通)	平年並以下	3(100)	29( 97)	
疫病 <sup>2)</sup>	一部を除いて平年並以下	4( 44)	83( 84)	
灰色かび病 <sup>3)</sup>	一部を除いて平年並以下	8( 89)	87( 87)	
アブラムシ類 <sup>4)</sup>	やや多	72(106)	387(108)	高温乾燥
ハダニ類 <sup>5)</sup>	やや多～多	27(129)	104(109)	〃
ハスモンヨトウ <sup>6)</sup>	多	12(200)	51(232)	高温少雨
ヨトウガ <sup>7)</sup>	やや多～多	14(100)	112(111)	〃

1) :カンキツ, ナシ, カキ

2) :トマト, ピーマン, キュウリ, スイカ, タマネギ

3) :トマト, レタス, イチゴ

4) :トマト, ナス, ピーマン, キュウリ, スイカ, ダイコン, ハクサイ, ネギ, レタス, ホウレンソウ, サトイモ, イチゴ

5) :ナス, スイカ, サトイモ, イチゴ

6) :ナス, レタス, サトイモ, イチゴ

7) :ハクサイ, キャベツ, ニンジン, ホウレンソウ

主な農作物被害は、4月18日の降霜、春以降の干ばつ、9月中旬から下旬にかけての秋雨前線停滞に伴う長雨、集中豪雨及び台風第26号等による被害が発生した。

10月15日現在の水稻の作柄は、北陸が104の「やや良」の他は、北海道108、東北107、関東・東山111、東海109、近畿110、中国111、四国112、九州114で各地とも「良」である。全国平均では作況指数109の「良」であり、10a当たり収量は543kgが見込まれる。

## II 病害虫の発生の概要

### 1 発生の概要

水稻のいもち病は、昨年の全国的な大発生により種子がいもち病菌に高率に汚染されているものが用いられるケースが多かったこと、春先から高温傾向であったことなどから、いもち病の初発生が早く、かつ広域にわたった。都道府県からはごく早期から種子消毒や育苗箱施薬、本田初期防除の徹底を呼びかける注意報が発令され近年例を見ない警戒ぶり、葉いもちに対する初期防除が積極的に実施され、かつ、空梅雨で降雨が少なく梅雨明け後も猛暑・干ばつであったことも幸いして、いもち病の伸展は停滞した。結果として葉いもちの発生は一部を除き全国的に「やや多」から「多」の発生となったが、穂いもちは「平年並み」以下の発生にとどまった。紋枯病は、近畿及び中国四国の一部で「やや多」となったものの、その他の地域では「平年並み」以下であった。昨年広い地域で多発した稲こうじ病や、白葉枯病は高温・乾燥により少発生であった。

セジロウンカ及びトビロウンカは飛来が大変少なかったため、増殖には好適な夏期高温となったが、ごく限られた地域で発生した他は「少」発生であった。ニカメイガの発生が近年一部地域で増加傾向にあるが、広い地域で「やや多」から「多」の発生となった。コブノメイガは飛来そのものは多くはなかったが、定着後の増殖が多く九州の一部で「多」の発生となった。ツマグロヨコバイが東北、関東北部、北陸の一部で「やや多」から「多」の発生、イネドロオイムシが四国、九州を除く地域で「やや多」の発生、斑点米カメムシ類及びイチモンジセセリが「やや多」から「多」の発生であった。

水稻以外の作物では、さつまいも、大豆のハスモンヨトウ、大豆のカメムシ類の発生が「やや多」から「多」であった。高温乾燥により果樹類全般及び茶のハダニ類の発生が「やや多」から「多」の発生となった。また、かんきつのミカンサビダニ、りんご、なし、うめ等のアブラムシ類も「やや多」の発生となった。野菜でも、高温乾燥によりハダニ類及びアブラムシ類の発生が各地で

多発傾向であった。夏秋野菜におけるハスモンヨトウ、タバコガ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウの発生が近年になく「多」となった。アブラナ科野菜のコナガは、北日本を中心に「やや多」から「多」の発生であった。近年西日本を中心に多発しているいちごのうどんこ病が北陸を除く全国各地で「やや多」から「多」の発生であった。

### 2 気象との関係

昨年の冷夏多雨と今年の猛暑少雨は、病害虫の発生に少なからず影響を及ぼしていると思われる。

イネいもち病は昨年多発し、伝染源の多さと春先の高温により葉いもちが多発したが、梅雨明け後の高温・乾燥により停滞した。しかし、山口県及び九州の一部では同様の気象経過に関わらず葉いもちが伸展したとの報告がある。このようなケースは中山間地や山際のほ場で多く見られ、昼夜温差による結露時間の伸びが主な原因と考えられる。イネ紋枯病は、昨年少発生で伝染源が少なかったこと、高温ではあったが干害となるほど降水量が少なかったこと、などから一部地域を除いては多発とはならなかった。

梅雨前線付近に卓越する下層ジェット気流により長距離移動するウンカ類やコブノメイガなどの飛来性害虫は、梅雨前線の活動が不活発で早い時期から北に押し上げられたことなどから、飛来そのものが大変少ない結果となった。

果樹や野菜のハダニ類が多発した。昨年の冷夏は天敵類についても影響を及ぼしていたと思われ、高温乾燥傾向の今年は早期からハダニ類の増殖が著しかった。作物によっては、盛夏期の高温により一時発生密度は減少したが、晩夏からは再び増加に転じ、一年を通しての多発となった。

果樹カメムシ類の発生量及び果樹園での加害と主な餌となる針葉樹のきゅう果との関係は未だ明らかでない部分があるが、昨年の気象の影響により杉、檜のきゅう果や桜の実は極端に不作であった。

アブラナ科野菜のコナガの多発は、降雨による卵の死亡率が今年は極端に少なかったことが大きな原因と考えられる。また、ハスモンヨトウ等鱗し目害虫の多発も、降雨による卵、幼虫期の死亡率の低下、乾燥による病原菌による死亡率の低下が重要な原因となっていると考えられる。

## III 病害虫防除事業

### 1 ウリミバエ

奄美群島：前年に引き続き奄美群島全域において侵入

表-2 平成6年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（数字は発表月日、ゴシックは警報） (10月1日現在)

		①イネ					その他の病害虫
		葉いもち	穂いもち	セジロウンカ	トビイロウンカ	コブノメイガ	
東 北	青森	7.6	8.1				
	岩手	6.13					
	宮城	6.28	7.15	8.10			
	秋田	6.21					
	山形	7.1	8.1				
関 東	茨城	6.24					
	栃木	6.9	7.8				6.14-ニカメイガ
	群馬		7.22				6.17-ニカメイガ
	埼玉	6.17					
	千葉	7.13	7.8				3.3-苗いもち, 6.6-イネドロオイムシ
北 陸	新潟	7.1					
	石川	7.1					
	三重	6.23					
近 畿	滋賀	6.29	7.18				
	大阪	7.13	7.13				8.30-紋枯病
	兵庫	6.29					
中 国 四 国	奈良		8.1				
	島根	6.29					7.29-斑点米カメムシ類
	岡山	6.29					
	広島	6.30					7.27-カメムシ類
	山口	7.4	7.4, 8.3				8.11-紋枯病
香 愛 高 知	香川	6.22	8.5				
	愛媛		6.20				8.1-斑点米カメムシ類
	高知	6.20					
九 州	福岡	6.29	8.1				
	佐賀	6.28	6.28			8.17	4.27-苗いもち
	熊本		7.1				7.11-紋枯病, 9.2-斑点米カメムシ類
	大分	6.29	6.30, 8.19				
	宮崎		6.29, 8.9				4.20-もみ枯細菌病
鹿児島		6.9, 8.5			7.19	6.22-斑点米カメムシ類	
	鹿児島		7.19			7.1	
		②畑作物（稲を除く）			③果樹（茶を含む）		
北海道		6.16-稲科牧草のアワヨトウ			7.26-リンゴ斑点落葉病		
東 北	青森	6.29-稲科牧草のアワヨトウ			4.14-リンゴモリニア病, 5.25-リンゴ黒星病		
	岩手				5.31-リンゴのナミハダニ, 6.30-リンゴ斑点落葉病		
	秋田				7.11-リンゴ斑点落葉病, 8.11-リンゴ, ナシのカメムシ類		
	山形				7.26-果樹のナミハダニ		
	福島				7.19-果樹のナミハダニ		
関 東	茨城	9.29-ダイズのアサヒヨトウ, シロイチモジヨトウ			6.3-ナシのカメムシ類, 7.21-果樹のカメムシ類		
	栃木				7.14-ナシのカメムシ類		
	山梨				6.1-モモのモモハモグリガ		
	長野				7.15-果樹のナミハダニ		
	静岡				5.23-カンキツのミカンキイロアザミウマ		

東 海	岐 阜		7.27-カキのカメムシ類
	愛 知	9.1-ダイズのハスモンヨトウ	8.2-果樹のカメムシ類
畿	三 重	9.27-ダイズのハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ	5.23-チャのカンザワハダニ
	滋 賀		7.15-果樹のカメムシ類
近	京 都	9.27-ダイズのハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ	5.25-ナシの黒斑病, 8.19-果樹のカメムシ類
	大 阪		7.28-イチジクのアザミウマ類
畿	兵 庫	9.14-ダイズのハスモンヨトウ	8.19-カキのカメムシ類
	和 歌 山		
中 国	鳥 取		5.13-ナシの黒斑病, 7.19-ナシのハダニ類
	島 根	9.19-ダイズのハスモンヨトウ	8.13-ナシのカメムシ類
四	岡 山	9.6-ダイズのハスモンヨトウ	7.29-果樹のハダニ
	広 島		5.12-ナシのハダニ類
国	山 口	8.31-ダイズのハスモンヨトウ	5.19-ナシの黒斑病
	香 川		8.4-果樹のカメムシ類
国	愛 媛		7.7-カンキツのミカンハダニ
	高 知	8.26-飼料作物, ダイズのハスモンヨトウ	
九 州	福 岡	9.5-ダイズのハスモンヨトウ	7.13-カキのカメムシ類
	佐 賀	9.8-ダイズのハスモンヨトウ	
州	長 崎	4.22-バレイショ疫病 9.2-ダイズのハスモンヨトウ	6.1-チャのカンザワハダニ, 9.2-カンキツのミカンハダニ
	熊 本	4.4-イグサのイグサシムシガ 8.23-ダイズのハスモンヨトウ	4.27-チャのハマキムシ類, 6.30-ナシ黒星病
州	宮 崎	7.29-ダイズのハスモンヨトウ	7.26-チャのチャノキイロアザミウマ, チャノミドリヒメヨコバイ
	鹿 児 島	8.25-畑作物のハスモンヨトウ 3.4-バレイショ疫病	4.26-チャ炭そ病, 5.25-カンキツそうか病 5.20-チャのカンザワハダニ, チャノキイロアザミウマ, 6.23-カンキツかいよう病, 7.4-果樹のカメムシ類

		④野菜 (花き類を含む)
北 海 道		6.16-アブラナ科野菜のコナガ
東 北	青 森	6.10-アブラナ科野菜のコナガ
	岩 手	7.29-キャベツのコナガ
関 東	栃 木	8.25-イチゴの炭そ病
	千 葉	9.14-ネギのシロイチモジヨトウ
東	神 奈 川	3.17-キャベツ灰色かび病, 6.30-ナスのミナミキイロアザミウマ
	静 岡	5.23-花きのミカンキイロアザミウマ, 9.29-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
北 陸	新 潟	9.14-ネギ軟腐病
	富 山	9.13-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
東 海	岐 阜	9.29-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
	愛 知	9.1-キャベツのハスモンヨトウ
海	三 重	9.27-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
	京 都	9.27-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
畿	大 阪	3.28-タマネギべと病, 白色疫病, 4.19-施設ブドウべと病
	兵 庫	3.16-タマネギべと病, 灰色腐敗病, 9.14-キャベツのハスモンヨトウ
中 国 四 国	鳥 取	2.14-ナス黒斑病
	島 根	9.19-アブラナ科野菜のハスモンヨトウ
国	岡 山	9.6-アブラナ科野菜のハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)
	広 島	9.8-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
山 口	1.14-イチゴのハダニ類, 3.17-タマネギべと病, 8.31-野菜のハスモンヨトウ	

中国 四国	香川	7.7-イチゴうどんこ病
	愛媛	6.20-イチゴうどんこ病, 9.9-野菜のハスモンヨトウ
九州	高知	8.26-露地野菜のハスモンヨトウ
	福岡	2.24-ナスすすかび病, 6.13-イチゴうどんこ病, 9.5-野菜, 花き, ダイズのハスモンヨトウ
	佐賀	1.13-ナスすすかび病, 2.14-タマネギボトリチス葉枯病, 8.31-野菜, 花きのハスモンヨトウ
	長崎	6.1-イチゴうどんこ病, 9.2-ダイズのハスモンヨトウ
	熊本	9.2-野菜のハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ
	宮崎	2.28-花きのマメハモグリバエ, ピーマン斑点病, うどんこ病, 7.29-野菜のハスモンヨトウ
鹿児島	7.5-イチゴうどんこ病, 9.16-サトイモのハスモンヨトウ	

(2) 特殊報 (数字は発表月日)

		① 普通作	② 果樹
東北	岩手		4.26-カキのカキグダアザミウマ初確認
	宮城	3.15-イネかさ枯病初確認	3.15-リンゴのリンゴクビレアブラムシ初確認
関東	群馬		10.17-ウドのウド萎縮病初確認
	神奈川		9.29-ウメのヤマシロヒメヨコバイ初確認
東山	山梨		2.17-果樹のミカンキイロアザミウマ初確認
	新潟		7.1-モモ枝折病初確認
	兵庫	7.15-イネのトビイロウンカ多飛来	
九州	佐賀		6.10-カンキツのワタミヒゲナガゾウムシ初確認
	鹿児島		10.28-カンキツのミカンキイロアザミウマ初確認 1.7-カンキツのリウキュウミカンサビダニ初確認

		③野菜	④花き類
東	青森		4.26-キクのキクモンサビダニ初確認
	宮城	3.15-野菜のミナキイロアザミウマ初確認 5.26-キュウリのミカンキイロアザミウマ初確認 10.6-トマトのマメハモグリバエ初確認	3.15-花きのミナキイロアザミウマ初確認
	秋田	4.1-ネギ斑点細菌病初確認	10.6-キクのマメハモグリバエ初確認
北	山形	8.12-園芸作物のミカンキイロアザミウマ初確認	8.12-園芸作物全般のミカンキイロアザミウマ初確認
	福島	7.7-野菜のマメハモグリバエ初確認	7.1-キクのミカンキイロアザミウマ初確認 7.7-花きのマメハモグリバエ初確認
関東	群馬	6.24-ナスのマメハモグリバエ初確認 10.17-レタスのウド萎縮病初確認	10.7-コスモスのウド萎縮病初確認
	埼玉	10.7-トマトのトマトサビダニ初確認	
	神奈川	9.28-ネギのイロイチモジヨトウ幼虫被害初確認	
	山梨	2.17-野菜のミカンキイロアザミウマ初確認	2.17-花きのミカンキイロアザミウマ初確認
畿	長野	3.29-キュウリのカボチャ台キュウリ立枯病初確認	5.2-トルコキキョウのミカンキイロアザミウマ初確認
	三重		10.18-ガーベラのミカンキイロアザミウマ初確認
近畿	大阪		8.11-キクのミカンキイロアザミウマ初確認
	奈良	1.25-ネギのシロイチモジヨトウ幼虫被害初確認 10.5-ナスのマメハモグリバエ初確認	1.25-スターチスのシロイチモジヨトウ幼虫被害初確認, 4.1-バラのミカンキイロアザミウマ初確認
中国 四国	島根	8.31-トマトのトマトサビダニ初確認 9.19-ネギのシロイチモジヨトウ初確認	
	岡山	10.12-ピーマンうどんこ病初確認, 10.21-トマトのトマトサビダニ初確認	
	福岡	4.6-イチゴのミカンキイロアザミウマ初確認	
	佐賀	10.28-イチゴのミカンキイロアザミウマ初確認	10.28-バラのミカンキイロアザミウマ初確認
九州	宮崎	1.7-サツマイモのハイロサビヒョウタンゾウムシ初確認	6.23-ガーベラのミカンキイロアザミウマ初確認
	鹿児島		

警戒調査を実施した。

沖縄県：前年に引き続き沖縄群島、宮古群島及び八重山群島において侵入警戒調査及び不妊虫放飼による再侵入防止防除を実施した。

## 2 ミカンコミバエ

沖縄県：前年に引き続き侵入警戒調査を実施するとともに、八重山群島において誘殺剤散布による再侵入防止防除を実施した。

小笠原諸島：前年に引き続き侵入警戒調査を実施した。

## 3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄及び小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

## 4 アリモドキゾウムシ

平成2年に発生が確認された鹿児島県西之表市及び平成6年9月に新たに発生が確認された同県揖宿郡山川町におけるアリモドキゾウムシについては、緊急防除の省令によりアリモドキゾウムシの寄主植物などの移動を禁止するとともに、発生地域において誘殺剤の散布、野生寄主植物の除去などを実施した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシ及びアリモドキゾウムシを対象にして、誘殺剤の散布と不妊虫放飼を組み合わせた実験的な根絶防除を実施した。

## 5 天敵増殖配布

果樹の重要害虫であるイセリアカイガラムシ、ルビエロウムシ、ミカントゲコナジラミのそれぞれの天敵であるベダリアテントウムシ、ルビーアカヤドリコバチ、シルベストリコバリの増殖配布を前年に引き続き静岡、岡山、長崎の各県でそれぞれ実施した。

## IV 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係実施面積は、4,545千ha（対前年度比80.3%）で、前年度に比べ1,115千haの減少となった。

本事業の基幹である水稻部門は、昨年の東北地方でのいもち病の緊急追加防除（152千ha）の関係もあり、本年度の防除実施面積は1,395千ha、前年度比87%となった。農業の剤型別散布面積の構成比は、液剤散布

平成5農薬年度農業出荷状況（推定）

(単位：t, kl, 百万円, %)

用途	5年度出荷 (実績)	平成6年度(推定)		
		出荷	対前年比	
殺虫剤	数量	155,793	153,000	98.0
	金額	140,828	143,000	101.5
殺菌剤	数量	112,762	110,000	97.4
	金額	105,870	108,000	101.6
殺虫殺菌剤	数量	56,706	54,000	95.1
	金額	27,585	29,000	106.4
除草剤	数量	133,388	130,000	97.5
	金額	128,166	134,000	104.3
その他	数量	25,224	25,000	100.3
	金額	13,116	13,000	101.4
合計	数量	483,873	471,000	97.4
	金額	415,565	427,000	102.8

44.6%、液剤少量散布11.9%、微量散布40.5%、微粒剤散布0.8%、粒剤散布2.3%であった。

果樹部門では、リンゴの野そ駆除、クリの害虫防除など5.2千ha（同96%）であった。

畑作部門では、ダイズ、ムギ、サトウキビ等の害虫防除など21.2千ha（同86%）であった。

畜産部門では、牧野の施肥など3.1千ha（同98%）であった。

ミバエ部門はミバエ類の侵入防止防除が行われ、3,121千ha（同78%）であった。

平成3年度の水稲の病害虫防除において実用化された無人ヘリコプターは、本年度水稲71.1千ha、コムギ及びダイズ等0.2千ha、計71.3千haの防除実績となり、昨年の2倍の実績となった。

## V 農業の出荷状況

平成6農薬年度（平成5年10月～平成6年9月）における農業の出荷は、前年度に比べ数量では2.6%減の471千t・kl、金額では2.8%増の4,270億円程度と推定される。

水稻用農業の出荷量は、いもち病の多発した昨年に比べやや減少したが、果樹、野菜等他の分野ではほぼ昨年並みとなった。